



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 4月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.170 2021.4

紹介内容 (3/1~3/31)

先進的農業に取り組む経営体の支援

- ① 先進的技術に取り組む経営体の育成・支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 亘理農改：「亘理地域りんご若手生産者勉強会第2回」を開催しました
 - 亘理農改：「亘理地域シャインマスカット栽培技術研修会（第4回）」を開催しました
 - 石巻農改：「下町ロケット」のモデルとなった北海道大学野口教授を講師に、スマート農業に関する職場研修会を開催しました
 - 仙台農改：株式会社未来彩園主催のトマト病害虫研修会を支援しました
 - 登米農改：スマートファーマー育成講座の開催
 - 美里農改：令和3年産「金のいぶき」栽培講習会が開催されました
 - 石巻農改：穂数の確保に向けた麦現地検討会が開催されました
 - 仙台農改：えだまめの生産振興に向けて「園芸特産振興研修会」を開催しました
 - 登米農改：JAみやぎ登米加工用馬鈴薯栽培講習会開催と種芋準備始まる
 - 仙台農改：令和3年度に向けて「だて正夢」地域栽培塾を開催しました
 - 栗原農改：水稻採種組合の栽培講習会が開催されました
 - 栗原農改：くりはらすプレーマム研究会総会が開催されました
 - 美里農改：酒造好適米「吟のいろは」の検討会を開催しました
 - 亘理農改：カーネーションのEOD-heating現地検討会及び産地表示販売検討会を開催しました
 - 登米農改：令和2年度栽培コンサルティング技術高度化セミナー総括研修会において登米地域でのきゅうり栽培を報告
 - 気仙沼農改：効率的なエネルギーの利用を目指した話し合いが行われました
 - 仙台農改：第2回JA仙台大豆生産部会協議会が開催されました

② 安全で安心できる農畜産物の生産に取り組む経営体への支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

- 栗原農改：ズッキーニ栽培講習会が開催されました
- 仙台農改：「第2回GAPを理解するためのミニ講習会」を開催しました
- 大河原農改：かきの病害防除研修会が開催されました
- 仙台農改：仙台市根白石地区でカラーミニトマト栽培講習会が開催されました
- 登米農改：岩手大学滝沢農場のブルーベリー視察研修会を開催！
- 大崎農改：令和3年産加工・業務用「春夏キャベツ」栽培講習会が開催されました
- 登米農改：令和2年産種子大豆の検査完了
- 栗原農改：スナックえんどう部会の現地検討会が開催されました
- 石巻農改：種子大豆の生産物審査証明書を発行しました
- 栗原農改：農地整備地区での高収益作物（そらまめ）の安定生産を目指して
- 登米農改：JAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催
- 栗原農改：そらまめ現地検討会が開催されました
- 大崎農改：JA古川そらまめ部会現地巡回が開催されました
- 大崎農改：大豆種子生産物審査を行いました

③競争力のあるアグリビジネス経営体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

- 亘 理農改：そばや米等を使った新商品発表会が行われました

地域農業の振興に向けた総合的な支援

① 地域農業を支える経営意欲の高い担い手の確保・育成に向けた支援・・・・・・・・・・ 10

- 仙 台農改：仙台地区4Hクラブ員が労務管理を勉強しました
- 登 米農改：登米農業マイスター制度による新規就農者の育成
- 石 巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会（定植・収穫準備編）を開催しました
- 大 崎農改：法人設立の相談会を行いました
- 気仙沼農改：「農業・農村女子会」を開催しました！
- 大 崎農改：大崎4Hクラブ通常総会が開催されました
- 仙 台農改：第2回アグリウーマンキャリアアップ研修会を開催
- 石 巻農改：実際に就農した方の事例から、新規就農支援のあり方を考えました
- 石 巻農改：石巻管内の農業法人で土地利用型作物の勉強会を開催しました
- 気仙沼農改：令和3年度気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会通常総会が開催されました！

② 農村地域の振興に向けた取組支援

- 大 崎農改：イノシシ・ツキノワグマ被害対策研修会を開催しました
- 気仙沼農改：道の駅『大谷海岸』がリニューアルオープンしました！

その他・・ 14

- 大河原農改：令和2年度第2回普及活動検討会を開催しました
- 仙 台農改：日本農業賞の表彰式が開催されました

先進的技術に取り組む経営体の育成・支援

①先進的技術に取り組む経営体の育成支援

「亘理地域りんご若手生産者勉強会 第2回」を開催しました

亘理農業改良普及センター
令和3年3月1日

亘理名取果樹振興協議会（事務局：亘理農業改良普及センター）では、当管内の若手りんご生産者を対象に、令和3年2月24日に「りんご若手生産者勉強会 第2回」を開催しました。

今回は、仙台ターミナルビル株式会社荒井事業所菊地秀喜専門監から、りんごのジョイント栽培に関する講話および同社が運営している「せんだい農業センターみどりの杜」と来月開園予定の「JA フルーツパーク仙台あらはま」を視察しました。

りんごジョイント栽培の実践的な話や、りんごや他の果物で実施している観光摘み取り園運営について話を聞くことができ、参加者の関心も高く、質問が多数ありました。

普及センターでは、今後も巡回指導やこのような勉強会等を通じて、りんご栽培技術の向上に向けた支援を継続していきます。



「亘理地域シャインマスカット栽培技術研修会(第4回)」を開催しました

亘理農業改良普及センター
令和3年3月1日

亘理農業改良普及センターでは、今年度からシャインマスカット栽培技術の品質向上と省力化を目的に、プロジェクト活動に取り組んでいます。令和3年2月25日、プロジェクトで支援する生産者等を中心に、「亘理地域シャインマスカット栽培技術研修会（第4回）」を開催し、生産者10名の参加がありました。

今回の研修では、春に向けての作業に関する講話と、各生産者から今年度の栽培の反省点や次年度にむけての技術目標等について話題提供をしていただきました。研修会等で学んだことを基にして、次年度、一層の品質向上や省力化のために新しい技術に取り組もうとする意欲的な生産者も増えています。

普及センターでは、今後も研修会の開催や個別巡回等により、当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。



「下町ロケット」のモデルとなった北海道大学野口教授を講師に、スマート農業に関する職場研修会を開催しました

令和3年3月2日
石巻農業改良普及センター

石巻農業改良普及センターでは、未来を見据えた新たな農業技術の普及を図るため、令和3年2月8日、「スマート農業の現状と今後の展望」をテーマに、職員を対象とした研修を開催しました。

講師には、あの「下町ロケット」のモデルにもなった、北海道大学大学院農学研究院ビークルロボティクス研究室の野口伸教授をお迎えし、札幌と石巻をつないだオンライン会議システムによるリモートでの講演をいただきました。当日は、気仙沼地方振興事務所からの接続・聴講もあり、総勢33名の参加となりました。

今後普及が進む5G通信での低遅延な無線伝送や高速大容量通信により、トラクターなど農業機械の遠隔操作での障害物検出と衝突回避や高精細モニタリングの実現が可能となることや、今後の技術導入にあたってはスマート農機をシェアリングする仕組みなどが有効となってくる事など、実際の稼働状況の動画とともに分かりやすく紹介していただきました。

スマート農業技術の普及にあたり、「生産者」と「技術」をつなぐ事が重要であり、我々普及指導員の役割や期待の大きさなど、熱のこもったエールもいただきました。

当管内でも、昨年度より国の事業等を活用したスマート農業の実証事業を実施しており、これらの結果を踏まえた技術支援を行いながら、今後の普及拡大に取り組んでいきます。



株式会社未来彩園主催のトマト病害虫研修会を支援しました

令和3年3月2日

仙台農業改良普及センター

令和3年2月19日に、大衡村衡東集会所を会場として、株式会社未来彩園主催の「トマト病害虫研修会」が開催され、従業員18名が参加しました。

当普及センターが講師となり、未来彩園の従業員が日頃の管理作業のなかで、トマトで問題となる病害虫を早期に発見できるように、たくさんの写真を使って、病害虫の被害の特徴や診断のポイントを紹介し、防除対策も説明しました。

ベテランの従業員のなかには、うなずきながら説明を聞いている姿がみられました。特に巻き付け班に所属する従業員にとっては、最初に病害虫を発見する機会が多いため、真剣な表情で説明に集中していました。研修終了後には、「写真で見る症状と実際にハウスで見る症状では違いがあったりすると思うが、見たことのない症状に遭遇した時にはどうしたら良いか」、「ウイルス病にかかったトマトの撤去はどの時点で行えば良いのか」などの質問がありました。



スマートファーマー育成講座の開催

令和3年3月8日

登米農業改良普及センター

令和3年2月26日に、登米市中田農村環境改善センターにおいて、令和2年度スマートファーマー育成講座をオンラインで開催し、青年農業士など農業者6人が参加しました。

はじめに株式会社日立ソリューションズ東日本からリスクマネジメントの基礎について説明があり、想定外の事態をできるだけなくすために多くの視点からリスクを洗い出すこと、リスク対応の順位を決める方法などを学びました。次に、株式会社J A三井リースからリースを活用したマネジメントについて紹介があり、「リースを活用し支払いを分割することで、一定の手元資金を確保でき、想定外の支出に備えることができる。」などの説明がありました。

参加者からは、「リスク分析の方法など会社で実践したい。」などの感想が語られました。



令和3年産「金のいぶき」栽培講習会が開催されました

令和3年3月8日

美里農業改良普及センター

玄米食専用品種の「金のいぶき」は健康志向の需要に向けた品種で、昨今の「内食」需要も相まって、生産・出荷数量の拡大が求められる品種の一つです。しかしながら、当品種は、従来品種と比べて収量のバラツキが大きく、安定生産が難しい品種特性があり、栽培技術の普及・向上が求められています。

J A新みやぎみどりの稲作生産部会涌谷支部では、令和2年産では13ha(12人)の作付けでしたが、令和3年産では35ha(21人)まで作付面積が拡大する予定です。このため、新規生産者の作付準備や従来からの生産者の栽培技術再確認を兼ねて栽培講習会が開催されました。基本は「金のいぶき」栽培マニュアルに従って、育苗や本田管理、追肥方法など、安定収量確保に向けた栽培技術について確認しつつ、昨年度の栽培実績に基づく収量確保の考え方についても確認しました。及川支部長からは「生産者が増えるので基本を徹底して欲しい」との挨拶があり、来賓の遠藤涌谷町長からは「気難しい米を手懐けて欲しい」と激励をいただきました。「金のいぶき」は健康志向の需要が高まってきており、令和3年産の安定供給が、今後の産地形成に重要であるため、普及センターでは継続して支援していきます。



穂数の確保に向けた麦現地検討会が開催されました

令和3年3月9日

石巻農業改良普及センター

令和3年2月19日に石巻市桃生地区、3月2日に石巻市石巻地区、3日に東松島市矢本地区、5日に石巻市河北地区にてJAいしのまき転作部会各支部主催の麦現地検討会が開催されました。検討会には各地区10名程度の生産者が参加し、ほ場を巡回しながら茎の中にある幼穂の長さを計測しました。計測した長さから、追肥の適切な時期を予測し、追肥時期の検討を行いました。この時期の追肥は、穂数の増加効果があり収量向上につながるため、生産者は熱心に麦の生育状況を確認していました。

令和3年産の播種は、順調に進み初期生育が良好であったため、概ね生育は順調です。穂数の確保が収量の向上につながるため、今後の適期適量の追肥を呼びかけました。普及センターでは今後も高収量・高品質の麦生産を支援していきます。



えだまめの生産振興に向けて「園芸特産振興研修会」を開催しました

令和3年3月10日

仙台農業改良普及センター

水田のフル活用に向けて、収益性の高い園芸作物への転換を推進するため、みやぎ園芸特産振興戦略プランの重点品目に位置づけられている「えだまめ」の生産振興を目的に、令和3年3月3日、JA新みやぎあさひな地区本部管内の農業者を対象に「今から始めるえだまめ栽培～現状と課題」と題して、「園芸特産振興研修会」を開催しました。

新たに「えだまめ」栽培に取り組む人にとっては、他作物との作型の競合回避や作付面積の拡大に伴う機械化体系など様々な課題があるため、それらをテーマとした各方面の講師から講義をいただきました。また、普及センターから管内の取組事例や普及活動計画の紹介、JAからは機械整備等の支援策について説明し、作付誘導を図りました。

研修会出席者20名に「作付け意向のアンケート」を取ったところ、作付希望面積は270aとなりました。今後は具体的な作付けに向けて生産者をきめ細かく支援するため、関係機関が連携して取り組んでいきます。



JA みやぎ登米加工用馬鈴薯栽培講習会開催と種芋準備始まる

令和3年3月10日

登米農業改良普及センター

令和3年3月4日、登米市米山町において、生産者7名、JAみやぎ登米、土地改良区、ほ場整備地区推進委員等が参加し加工用馬鈴薯栽培講習会が開催されました。講習会では、カルビーポテト株式会社の担当者から品種の特徴や機械化一貫体系のポイントについて、普及センターからは転作水田の排水対策や土づくり、登米の気象条件に合わせた栽培管理について説明しました。今作は昨年の9haから16haへの作付け拡大を予定しており、参加した生産者は良質なばれいしょ生産に向けそれぞれの課題と対策を確認しました。

令和3年3月9日には、生産者およびJAの担当者で種芋の消毒が行われ、今年の作付作業がスタートしました。普及センターでは、水田フル活用、高収益作物導入に向けた取組みを支援します。



令和3年度に向けて「だて正夢」地域栽培塾を開催しました

令和3年3月11日

仙台農業改良普及センター

水稻新品種「だて正夢」は、本格デビューからまもなく4年目を迎えます。当普及センターでは、次年度に向けた高品質生産のため、令和3年2月26日、管内2会場において地域栽培塾を開催しました。

今年度3回目の研修であり、今回は今年度の作柄を振り返り、品質不適合例とその対策、栽培するにあたっての当面（種子準備～田植え）の注意点について説明しました。管内における品質不適合例については、昨年度より事例数は減少しているものの、タンパク質含有率の基準の超過や斑点米カメムシ

類の吸汁などによる落等が見られたため、その対策について説明を行い、注意を促しました。質疑応答では、生産者・普及センター間だけではなく、生産者同士の情報交換も行われ、次作に向けた栽培管理について、改めて確認していました。



水稲採種組合の栽培講習会が開催されました 令和3年3月12日 栗原農業改良普及センター

令和3年3月10日(水)に一迫水稲採種組合の栽培講習会が開催されました。令和3年の水稲採種の作業がこれから本格的にスタートすることから、採種管理のポイントの確認を目的に、組合員25名が出席しました。

普及センターからは、漏生稲対策や異株抜きの徹底、いもち病、稲こうじ病等の病害対策を中心に、水稲採種の栽培管理技術について説明しました。ここ数年、出穂前の低温少照や出穂期以降の高温など、水管理、病害虫防除等に気を遣う年が多くなっており、これまで以上にほ場見回りをこまめに行ってほしい旨、伝えました。

講習会後にJA担当者から組合員に「ひとめぼれ」、「つや姫」等の原種が配布され、参加した組合員は本年の水稲採種へ取り組む決意を新たにしています。



くりはらスプレーマム研究会総会が開催されました 令和3年3月12日 栗原農業改良普及センター

3月3日(水)、くりはらスプレーマム研究会通常総会が栗原合同庁舎で開催されました。

くりはらスプレーマム研究会は、スプレーぎく栽培の技術情報の収集や相互交流等を目的として、栗原市だけでなく登米市や大崎市、涌谷町のスプレーぎく生産者が広域的な活動を行っており、スプレーぎ

くを一輪に仕上げるディスプレイマムの生産も増えています。

平成8年に設立された研究会は、今年で25年目を迎え、後継者である若い世代を中心とした運営に移行してきています。

総会では、令和2年度事業報告や収支決算報告、令和3年度の事業計画や収支予算等について協議され、承認されました。

また、研究会設立時から支援いただいている登米農業改良普及センター佐藤泰征所長にも出席いただき、設立に至ったきっかけ、活動の歴史等のお話をいただきました。

総会終了後、種苗会社の担当者から新たに発表されたスプレーぎく新品種や市場評価の高い品種の紹介があり、会員は次作の作付計画の参考とするため熱心にメモを取り、花色、葉の形状、茎の太さなど手に取って確かめていました。



酒造好適米「吟のいろは」の検討会を開催しました 令和3年3月16日 美里農業改良普及センター

「吟のいろは」は、令和2年2月に品種登録出願公表され、同月に日本酒がデビューしています。令和2年産「吟のいろは」を使った日本酒も順次発売されており、数量限定ということもあって、上々の売れ行きとなっています。

令和3年3月9日(火)に、令和2年産の総括と令和3年産の栽培方針を確認するため、新みやぎ農協みどりの地区本部大会議室を会場に、「吟のいろは」検討会を開催しました。

宮城県酒造組合、全農みやぎ、松山町酒米研究会「吟のいろは」生産者、農協、県関係者、計21人が出席しました。

令和3年産の農産物検査については、出荷数量1,314袋のうち120袋が特等に、残りも全て1等に格付けされました。また、醸造適性を測る成分分析結果についても、令和元年産と比べて8人の生産者毎のばらつきが良い方向に少なくなり、生産者の栽培技術の向上と、収数制御等栽培に気を配ることで、高品質原料米を提供できる見通しが立ったと感じています。

令和3年産は、松山町酒米研究会の会員8人と1組織で725aの作付けを行う予定です。

普及センターでは、令和2年産で収集したデータを元に、目標収量構成要素と栽培指標の案を示し、令和3年産の栽培の中で検証を行っていく計画です。



カーネーションの EOD-heating 現地検討会及び産地表示販売検討会を開催しました 令和3年3月18日 亙理農業改良普及センター

令和3年3月12日に宮城県花と緑普及促進協議会と亙理農業改良普及センターの共催で、名取のカーネーション産地を対象とした、EOD-heating（イオンヒーティング：日没後の短い時間だけ暖房する技術）現地検討会と産地表示販売検討会を開催しました。

今年度、名取のカーネーション産地では、冬季の暖房使用燃料の削減をねらいとした「EOD-heating」と、花き分野ではまだ事例が少ない「産地表示販売」の実証試験に取り組みました。今回は、その結果を生産者、市場関係者及び行政や研究機関も含めて共有し、次年度の取組に向けた意見交換を行いました。

EOD-heatingの実証試験では、開花時期や切り花品質に影響を与えずに、燃油消費量を35%削減できる実証結果が得られたことから、参加者の関心は高く、実証農家の説明を注意深く聞き取る様子が見られました。

産地表示販売検討会で行った意見交換では、市場関係者から「小売店への働き掛けがポイントになる」との意見や、名取市役所による産地PRの取組状況等、今後の活動を展開する上で参考となる助言や情報提供がありました。

普及センターでは、今後も、新たな栽培管理技術や販売手法の導入に向けた支援を行っていきます。



令和2年度栽培コンサルティング技術高度化セミナー総括研修会において登米地域でのきゅうり栽培を報告 令和3年3月23日 登米農業改良普及センター

令和3年3月16日、令和2年度栽培コンサルティング技術高度化セミナー総括研修会がオンライン

で開催され、登米地域からはコンサルタントの現地指導を受けたきゅうり生産者4人と野菜担当の普及指導員が参加しました。本研修会は施設園芸における高度環境制御技術について、JA営農指導員や普及指導員の技術力向上を目的に、国内で唯一の環境制御に関する栽培コンサルティング会社の（株）デルフィー日本の齊藤章氏と加納賢三氏を講師に、きゅうりといちごでの技術指導の視点や手法等を学びました。

きゅうり生産者からは、実践した内容や成果について、普及指導員からは現地指導の実施内容について報告を行いました。講師の齊藤氏からは、技術の実践によってひとつひとつ課題を解決していったことが、収量向上に結び付いたとの講評をいただくとともに、今後も課題解決を積み重ねて収量を増やしていく取組を継続していくことが重要とのアドバイスをいただきました。

また、環境制御技術の取組を進める他県の普及指導員や生産者もオンラインで報告会に参加いただき、群馬県邑楽館林のきゅうり栽培での取組を紹介いただくとともに、相互の情報交換を行いました。

本セミナーを通し、施設園芸先進国のオランダの技術や国内の最新技術など環境制御に関する知識、これらの技術を地域の気候や施設環境に合わせて実践するための様々な工夫や指導方法を学ぶことができました。



効率的なエネルギーの利用を目指した話し合いが行われました 令和3年3月23日 気仙沼農業改良普及センター

大型園芸施設では、冬期間の燃油等コストの削減が経営上の大きな課題となっています。そこで、管内で2ヘクタールの施設でトマトを生産する農業法人に対し、効率的なエネルギーの利用に向けたコンサルティングを行いました。県園芸振興室の事業によりエネルギーマネジメントに詳しい民間コンサルタントを派遣し、過去の環境や収穫量等のデータを比較しながら暖房機や二酸化炭素発生機が効率的に使われているかを確認しました。コンサルタントからは「日射が多い時期は二酸化炭素発生機を今よりも早めに稼働させ、光合成を促進させれば効率的にエネルギーを活用できる」と助言がありました。また、普及センターから「収量の最も多かった年の栽培管理をもう一度見直すこと」を提案しました。法人の社長や栽培管理者からも様々な意見が聞かれ、今回のデータを今後の栽培管理にどのように

生かしていくのか見直す機会になりました。



第2回JA仙台大豆生産部会協議会が開催されました

令和3年3月23日
仙台農業改良普及センター

令和3年3月16日、せんだい農業園芸センターにおいて第2回JA仙台大豆生産部会協議会が開催され、JA仙台管内の大豆を生産する農業法人等33人と関係機関が出席しました。冒頭にJA仙台の代表理事組合長から「需要に応じた米づくりがより強く求められており、大豆をはじめ様々な取組の転換期となる。経営の効率化が必要」という挨拶がありました。

続いて、令和2年産大豆の販売情勢や農産物検査結果、令和3年産の作付予定面積などについてJA等から報告がありました。当普及センターからは、令和2年産で発生が多かった紫斑病について、防除対策を中心に説明しました。紫斑病は大豆の品質低下に繋がる重要病害であることから、出席者の関心が高く、質問や要望が多く出されました。

今回の協議会で、令和3年産大豆の作付けに向けて課題が明確になったことから、今後もJAと連携して取り組んでいきます。



②安全で安心できる農畜産物の生産に取り組む経営体への支援

ズッキーニ栽培講習会が開催されました

令和3年3月2日
栗原農業改良普及センター

令和3年2月25日(木)JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会による栽培講習会が志波姫支店で開催され、部会員28名のほか、JA新みやぎ栗っこ、種苗会社、普及センターの担当者が出席しました。

種苗会社からは、春作ズッキーニの栽培技術のポイントとして、これから播種や定植が始まるため、特に低温期の温度管理方法について説明がありました。普及センターからは、農薬の適切な使用方法と適用病害の特徴について説明しました。また、普及センターが作成したズッキーニ栽培暦ポスターを参加者へ配布しました。作業場など目に付くところに貼って、栽培のポイントや収穫調製方法を確認するのに大きくて見やすいと好評でした。

今後も、普及センターではズッキーニ販売額1億円に向けて、継続して支援を行っていきます。



「第2回GAPを理解するためのミニ講習会」を開催しました

令和3年3月3日
仙台農業改良普及センター

大衡村にある株式会社 未来彩園は、10,393 m²のダブルフェンロー型温室で大玉トマトと中玉トマトの養液栽培を行っており、平成19年にJGAP認証を、さらに平成30年にはASISGAP認証を取得し、食の安全や環境保全等に配慮した生産活動に取り組んでいます。

仙台農業改良普及センターでは昨年度から同社に対して、全従業員がGAPを理解することで意識醸成が図られ、自発的な現場改善活動定着のための支援をしてきました。

2月16日、大衡村衡東集会所を会場に、同社主催の従業員研修会において、「第2回GAPを理解するためのミニ講習会」が開催され、株式会社 未来彩園におけるGAPへの取組をクイズ形式で出題しました。昨年9月に開催された第1回目の講習会では、当普及センター職員が講師役を務めました。今回は、GAP指導員資格を有する同社の経営者及び栽培担当主任が、問題の作成や解答の説明等について主体的に関わり、普及センターがバックアップする形で開催しました。参加した従業員は、「身近な現場」からの出題ということもあり、日常的に行っている行動等がGAPに深く関連していることを認識するとともに、経営者においては、主体的な関わりを通じて、今後の従業員に対するGAP教育のあり方を考える機会になったようでした。

普及センターでは今後もGAPへの理解を深めていただく取組に対して支援を行っていきます。



**かきの病害防除研修会が開催されました
令和3年3月9日
大河原農業改良普及センター**

丸森町では「蜂屋柿」を使った干柿や樽柿などのかきの加工が盛んに行われており、県内一の産地となっています。しかし、近年は原料となるかきに炭そ病が発生するようになり、原料柿の生産に大きな影響を与えています。

そこで、令和3年2月26日に丸森町館矢間まちづくりセンターを会場に宮城県病害虫防除所職員を講師に迎え、「かきの病害と農薬の使い方」と題し、研修会が開催されました。最初に農薬の安全・適正使用について話があり、続いて、かきの主要病害である炭そ病や落葉病の対策について説明がありました。

普及センターからは、土壌分析による施肥の重要性や堆肥を施用する場合の注意点など、かき園の土壌管理について情報提供しました。出席者からは、大変勉強になる良い研修会だったとの声がありました。

丸森町は、干柿を町の特産品として支援しており、今後も原料柿の品質向上による丸森町干柿の一層のブランド化が期待されます。



**仙台市根白石地区でカラーミニトマト栽培講習会
が開催されました
令和3年3月10日
仙台農業改良普及センター**

令和3年2月18日に、仙台市根白石地区でJA仙台主催のカラーミニトマト栽培講習会が開催され、生産者7名が参加しました。

当普及センターからは、病害虫の発生症状や発生時期等、病害虫防除のポイントについて指導しました。栽培講習会が開催されるようになり3年目になりましたが、年々、生産者の病害虫防除に関する知

識、技術が向上し、今作の病害虫の発生は、前年より少なくなりました。

また、JA仙台西部営農センター管内では、カラーミニトマトの生産者、栽培面積が増加傾向にあることから、JA仙台と協力して、病害虫防除や作業のポイント等をまとめた「栽培暦」を配付しました。

今後も、関係機関と協力し、生産者の栽培技術向上、収量向上を支援していきます。



岩手大学滝沢農場のブルーベリー視察研修会を開催！

**令和3年3月11日
登米農業改良普及センター**

令和3年3月9日に登米市の(株)サンフルーツファーム(南方町)と(有)伊豆沼農産(迫町)が、ブルーベリーの品種更新やせん定方法を学ぶため、岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンスの滝沢農場のブルーベリー園地を視察しました。岩手大学では、早くからブルーベリーの栽培方法や生理生態の研究を重ね、普及に貢献しています。

始めに、岩手大学農学部渡邊学助教から、滝沢農場は岩手山麓の火山灰土壌でブルーベリーと相性が良いことなど、園地の説明を受けました。渡邊先生からは、水田跡地での新植や改植時のポイント、樹齢や樹勢が異なる樹のせん定について説明していただきました。参加者からは、土壌改良の方法や枝の更新方法、収穫量等について質問があがり、有意義な視察となりました。



令和3年産加工・業務用「春夏キャベツ」栽培講習会が開催されました 令和3年3月12日 大崎農業改良普及センター

令和3年3月11日に、JA加美よつば主催の春夏キャベツ栽培講習会が開催され、JA加美よつば、普及センター、部会員を合わせて24名が参加しました。JA加美よつばでは平成29年にキャベツ部会が設立され、栽培技術向上のため作業開始前に栽培講習会を開催しています。

講習会では初めに、JA加美よつばの営農指導員から作型・育苗管理・ほ場準備・定植後の管理・病害虫防除・収穫・出荷のポイントについて説明がありました。

次に普及センターから去年の気象経過について、定植直後から生育期間を通して高温・乾燥が続いた影響で生育が遅れたことや、乾燥が続く場合にはかん水を行うことなどを説明しました。また施肥について普及センターで土壌分析を行っているので、分析結果を参考に適切な施肥管理を行ってほしいと呼びかけました。



令和2年産種子大豆の検査完了 令和3年3月17日 登米農業改良普及センター

令和3年2月16日から3月15日にかけて、JAみやぎ登米短台農業倉庫などで、令和2年産種子大豆の生産物審査を行いました。

JAみやぎ登米では、1組織（米山）と2法人（中田、登米）が、タチナガハ12haとミヤギシロメ24haの種子大豆を生産しており、県内種子大豆の約30%を占めています。

登米農業改良普及センターでは、事前に発芽率などの生産物審査を行い、JAは品質などの農産物検査を実施し、基準を満たしたものが「合格種子」として流通します。

去年は7月の長雨など気象条件の難しい年でしたが、生産者の適切な管理により、収量、品質とも良く、タチナガハ34,410kg、ミヤギシロメ44,400kgが合格種子となりました。



スナックえんどう部会の現地検討会が開催されました

令和3年3月23日
栗原農業改良普及センター

令和3年3月16日に、JA新みやぎ栗っこスナックえんどう部会の現地検討会が、栗原市瀬峰の秋まき栽培ほ場を会場に開催され、12名の生産者が参加しました。

今後の管理のポイントとして、種苗会社から側枝の整理、倒伏防止や草勢維持の方法などについて説明を受けた後、普及センターから病害虫防除と主な登録農薬について説明しました。参加者からはマルチをしている場合の追肥のやり方や、倒伏防止のためのネットやテープの張り方など、具体的な作業をイメージした質問が多く出され、活発な情報交換が行われました。



種子大豆の生産物審査証明書を発行しました 令和3年3月23日

石巻農業改良普及センター

石巻管内では、本県で大豆の優良品種に指定している「タンレイ」、「タチナガハ」、「ミヤギシロメ」の3品種の種子を約38haで栽培しており、県内で生産される種子大豆の約3割の生産を担っています。

普及センターでは、生産された種子大豆が、種子として発芽率等の基準を満たしているか審査を行っています。併せて農協では、種子としての品質を満たしているのか農産物検査を行っています。この審査と検査の両方の基準を満たした大豆だけが、令和3年産用の種子大豆として、播種されることとなります。

今年審査した種子大豆も例年同様に、発芽率等の基準を満たしていたので、2月24日から3月12日

にかけて、生産物審査証明書を発行しました。

普及センターでは、今後も優良種子の生産に向けて、生産者に対し引き続き栽培管理の支援を行っていきます。



農地整備地区での高収益作物(そらまめ)の安定生産を目指して

令和3年3月24日

栗原農業改良普及センター

令和3年3月18日(木)に栗原市志波姫上沼地区で「そらまめ栽培研修会」を開催しました。当地区では農地整備事業を契機に高収益作物に取り組むこととしており、そらまめを令和3年秋に播種・定植する計画としていることから、担い手がそらまめ栽培について事前に学習しました。

種苗メーカーからそらまめ作付け前の緑肥による土づくりについて説明を受けた後、普及センターからはそらまめの管理作業の概要のほか、病害虫防除や開花期以降の土壌の過乾燥防止など増収のためのポイントについて説明しました。栽植密度、施肥などについて活発な質疑があり、緑肥作物の具体的な選定も行われました。研修会後には近隣で作付けされているそらまめの生育状況を見学し、春作業のイメージを共有しました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し、そらまめの安定生産に向けた支援を行っていく予定です。



JAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催

令和3年3月24日

登米農業改良普及センター

令和3年3月18日、JAみやぎ登米そらまめ部会の部会員20人が参加し、登米市米山町と豊里町のほ場で現地検討会が開催されました。

検討会では、ほ場で生育を確認しながら部会員それぞれの生育状況について、活発に情報交換が行われました。普及センターからは、今後の気象経過や不織布の除覆、病害虫の防除のポイントについて説明しました。

春を迎え、農作業が忙しくなる時期ですが、良質なそらまめの生産に向け、適期管理の徹底を確認しました。



そらまめ現地検討会が開催されました

令和3年3月25日

栗原農業改良普及センター

令和3年3月19日(金)、JA新みやぎ栗っこそらまめ部会による現地検討会が栗原市瀬峰・志波姫・築館の3ほ場で開催され、部会員24名のほか、JA新みやぎ栗っこ、種苗会社、普及センターの担当者が出席しました。

種苗会社からは、そらまめの今後の管理として、開花期の乾燥を避けることや、摘花・摘莢により無駄花を除去するよう説明がありました。普及センターからは、そらまめに発生する病害虫の特徴と防除のポイントについて説明しました。参加者からは、追肥方法や微生物資材について質問があったほか、積極的な意見交換が行われました。

今後も、普及センターではそらまめの安定生産に向けて、継続して支援を行っていきます。



JA古川そらまめ部会現地巡回が開催されました

令和3年3月25日

大崎農業改良普及センター

令和3年3月19日にJA古川そらまめ部会の現地巡回が開催され、生産者15名のほ場を巡回し、生育状況の確認と越冬後の栽培管理について指導しました。

J A古川管内では10月に播種する秋まき栽培が一般的で、父の日需要の出荷に向けてそらまめを生産しています。今年は12～1月にかけて強い寒波に襲われたことで霜害が見られています。そのため6月の収穫・出荷に向けて今後の栽培管理が重要となっています。普及センターからは寒さ対策の被覆資材を取り除くタイミングや、今後の病害虫防除と追肥、中耕・培土管理などについて説明しました。

普及センターではこれまで作付前の9月に栽培講習会、12月と3月に現地巡回を実施してきました。今後もJ A古川と連携して栽培指導を行い、高品質なそらまめ出荷に向けて支援を継続していきます。



大豆種子生産物審査を行いました 令和3年3月25日 大崎農業改良普及センター

大崎普及センター管内は県内随一の大豆産地で、種子大豆生産にも取り組んでいます。J A古川管内の種子大豆生産組織・農家は、収穫後に大豆センターで調製した種子大豆をていねいに手選別を行い、種子用大豆として出荷しています。

普及センターでは、栽培指導を行うとともに、2回のほ場審査を実施しました。収穫後は、製品の種子大豆の中の病害虫粒等の混入有無の調査や発芽試験を行い、厳密な生産物審査基準を満たしたものが「合格」と判定され、種子大豆として流通します。

令和2年は梅雨期の長雨の影響で、栽培管理には苦労しましたが、種子大豆生産者の努力により、品質は良好で出荷された種子大豆は全量合格となりました。

高品質な種子大豆が安定して大豆生産者に届けられるよう、普及センターでは引き続き種子大豆生産者への支援と審査業務を行ってまいります。



③競争力のあるアグリビジネス経営体の育成

そばや米等を使った新商品発表会が行われました 令和3年3月17日 巨理農業改良普及センター

巨理農業改良普及センターでは、農業生産者の起業活動や6次産業化支援の一環として、今年度、名取市の農業法人である「株式会社今慶農産」の新商品開発を支援しました。

今年1月、そばや米等の自社農産物を使った新商品（そば乾麺や米麴を使った漬物等）が完成し、自社直売所やイベント等にて販売を開始しました。

令和3年3月12日には、地元での認知度向上や今後の企業連携を模索する目的で、地域内企業等を対象にした新商品発表会を開催し、発表会では、参加者から販路拡大につながる意見や地域連携のアイデア等、たくさんの意見をいただきました。

普及センターでは、今後も農業生産者の起業活動や6次産業化の支援を行います。



地域農業の振興に向けた総合的な支援

①地域農業を支える経営意欲の高い担い手の確保・育成

仙台地区4Hクラブ員が労務管理を勉強しました 令和3年3月1日 仙台農業改良普及センター

仙台地区4Hクラブ連絡協議会が、農業従事者向けの労務管理の基礎を学ぶため2月16日に仙台農業改良普及センターのオープンラボで労務管理勉強会を開催し、4Hクラブ員7名が出席しました。

勉強会は、厚生労働省の令和2年度農林業職場定着支援事業（農業雇用改善推進事業）を活用し、社会保険労務士の松永拓也氏に講義をしていただきました。農業雇用管理研修会テキストに沿って、雇用する際に留意すべき点などについて質問を受けながら分かりやすく説明いただき、労務管理について勉強するのは初めてというクラブ員にも理解しやすく、「参加して良かった」と好評でした。



登米農業マイスター制度による新規就農者の育成 令和3年3月4日 登米地域農業改良普及センター

登米地域では、新規就農者の早期の生産技術習得や経営安定化等を目的に、熟練農業者をマイスターとして派遣する「登米農業マイスター制度」を平成28年度から実施しています

令和2年度は、きゅうりでは中館さん（米山）が佐藤展さん（JAみやぎ登米胡瓜部会青年部会長）から夏秋と抑制の栽培管理で1回、りんごでは小野寺さん（中田）が芳賀秀二さん（JAみやぎ登米りんご生産部会長）から「ふじ」と「つがる」のせん定方法で3回、繁殖牛では佐藤さん（東和）が千葉啓さん（JAみやぎ登米肉牛部会長）から繁殖管理と飼養管理等で3回指導を受けました。

新規就農者は、マイスターから技術を直接学べただけでなく、JA部会内の先輩農家との人脈が作れたと感想を述べています。

県の登米農業マイスター制度は令和2年度で終了しますが、次年度以降は登米市が引き継ぐ予定です。



アスパラガス栽培管理勉強会（定植・収穫準備編） を開催しました 令和3年3月9日 石巻農業改良普及センター

令和2年普及活動計画のプロジェクト課題「地域活性化に向けた高収益作物（アスパラガス）の導入・定着」の一環として、令和3年3月3日（水）にアスパラガス栽培管理勉強会（定植・収穫準備編）を開催、48名（うちアスパラガス生産者32名）が参加しました。

今回の勉強会では、明治大学とパイオニアエコサイエンス株式会社が共同開発した「採りつきり栽培」に取り組む生産者を中心に、同社の松永邦則氏を講師に迎え、定植のためのほ場準備や収穫時期の管理方法について説明をいただきました。

今回の勉強会では、令和3年の春から新たに栽培に取り組む生産者が多く参加し、来月に控えた初めての定植を前にして、熱心に講師説明を聞く姿が見られました。また、昨年春に定植し、これから初めての収穫を迎える生産者は、収穫に大きく期待する様子が窺えました。

令和3年度は、2か月に1回のペースで勉強会を開催する予定です。第1回の開催時期は4月上旬、内容は定植方法についてです。



法人設立の相談会を行いました 令和3年3月10日 大崎農業改良普及センター

令和3年3月4日に大崎市において農業経営相談所委嘱専門家である石川司法書士の支援を受け、関係機関が集まり法人設立に向けた相談会を行いました。

支援を受けたのはトマトと大規模水稻経営をしているS氏で、今後ハウスを増棟しトマトの生産拡大を計画しています。石川司法書士からは4月の法人登記に向け、事前に提出した定款案について指導をいただきました。また代表者印の作成や資本金の振込等の用意を進めること、今後のスケジュールについて具体的な説明がありました。大崎市からは登記後に農業委員会で農地の権利移転等に関する所定の手続きが必要になる旨の説明がありました。

普及センターでは、継続して農業経営相談所と連携し農業経営の法人化支援に努めてまいります。



「農業・農村女子会」を開催しました！ 令和3年3月15日 気仙沼農業改良普及センター

当地域の女性農業者や様々な分野で活躍している女性同士のネットワークづくりを目的に、令和3年3月4日に「農業・農村女子会」を開催し、管内の女性8名が参加しました。

管内のペンションを会場に、震災後から地域の女性とともにコミュニティを育てる活動を行っている特定非営利活動法人ウィメンズアイの栗林美知子氏を講師に迎え、「自分の中の「物語」を見つけ出す」をテーマにワークショップを行いました。参加者が抱えている悩みや、将来の夢などを語り合いながら、自分自身を見つめ直すきっかけとなりました。

研修会後には参加者同士で連絡先を交換するなど、異業種交流を深めることができた研修会となりました。



大崎4Hクラブ通常総会が開催されました 令和3年3月18日 大崎農業改良普及センター

大崎4Hクラブの令和2年度通常総会が、令和3年3月12日（金）に大崎合同庁舎で開催され、クラブ員14名中12名が出席しました。昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で書面での実施となったため、2年ぶりにクラブ員が集まっての開催となりました。

令和2年度は、コロナ禍で実施できなかった事業が多かったですが、2名の女性新会員の加入やクラブ員内研修、美里地区との合同研修会等、活発な活動を行ってきました。

総会では、普及センター所長の祝辞の後、議事が行われ原案どおりすべて承認され無事終了しました。総会の最後には、渡辺新会長始め新役員から、来年度に向けたあいさつがありました。新年度は、昨年中止とした親子農業体験を再開する予定です。

普及センターでは、今後も4Hクラブの活動支援を行っていきます。



第2回アグリウーマンキャリアアップ研修会を開催 令和3年3月18日 仙台農業改良普及センター

仙台農業改良普及センターでは、女性農業者の新たなチャレンジを応援するため、令和3年3月10日、仙台市泉区のイタリアンレストラン PORTTAVOLA を会場に令和2年度第2回アグリウーマンキャリアアップ研修会を開催しました。

「食材王国みやぎ伝え人」でもあるオーナーシェフの瀬戸正彦氏を講師として、県内外からお越しいただくお客さんに地元食材の魅力を伝え、満足してもらえるよう心掛けていること、1つ1つ味の濃いこだわりの食材を求めていることなどをお話いただきました。

参加者は、瀬戸シェフの地域食材への熱い思いに大いに刺激を受け、新たな品目の栽培への意欲を高めた様子でした。また、シェフと参加者が直接食材仕入れ等について意見を交わすなど、実りのある研修会となりました。



実際に就農した方の事例から、新規就農支援のあり方を考えました 令和3年3月19日 石巻農業改良普及センター

令和3年3月16日、管内自治体や農業委員会、JAなどの支援機関を集めて「新規就農者確保定着に向けた意見交換会」を開催しました。

普及センター管内で令和2年度に自営就農し、認定新規就農者となった2人の生産者をお招きし、就農の経緯や現在の経営概要、就農前後に活用した支援策や困ったことなど、自身の経験を伺いました。

IT企業を退職して地元に戻ってきた新規就農者は、技術習得のために県農業大学校ニューファーマーズカレッジ・マスタークラスに1年間通った話を披露。研修生1人ひとりに栽培区画が与えられ、生産物を販売して消費者と交流した経験が、今の栽培品目選びに役に立ったとお話いただきました。

もう1人は、自営就農に先だって農業法人に5年間勤務。そこで栽培技術だけでなく経営・労務管理も学んだほか、法人勤務時に繋がりができた地域の方々、独立の時に力を貸してくれたことを語ってくださいました。

一方で、課題として、就農希望者が空き農地や施設を確保するための支援体制や、新規就農者が活用できる補助事業の整備などを挙げていただきました。



た。

石巻管内の農業法人で土地利用型作物の勉強会を開催しました 令和3年3月23日 石巻農業改良普及センター

令和3年3月18日に、東松島市の(株)めぐいとで土地利用型作物の勉強会を開催し、役員と社員合わせて8名が出席しました。

普及センターでは、(株)めぐいとを対象にプロジェクト課題「組織力強化による農業法人の経営ステップアップ」に取り組んでおり、今回はその活動の一環として開催した令和2年度2回目の勉強会でした。

前回は麦や大豆の作業暦の整理を実施していたので、今回は除草や肥培管理の詳細やポイント、また、これから本格的に栽培が始まる水稻の作業をテーマに勉強会をしました。勉強会では、社員全員で麦の幼穂長確認作業に挑戦するなど、配布した資料により畑地雑草や水稻乾田直播栽培において重要となる播種～入水までの除草体系について説明しました。

勉強会中も役員や社員からは質問や活発な意見交換がされ、メモを取りながら熱心に説明を聞いていました。

普及センターでは今後も技術指導や社内制度整備等、多方面からの指導により経営のステップアップを支援してまいります。



令和3年度気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会通常総会が開催されました！ 令和3年3月30日 気仙沼農業改良普及センター

令和3年3月25日に『令和3年度気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会通常総会』が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症のため主要行事が中止されるなか、農産物をより魅力的にアピールするための研修会や農業士会との合同視察研修を行いました。

令和3年度には、新たに県合同庁舎での販売会を定期的で開催することにしました。新型コロナウイルス感染対策のため対面販売は行わず、予約注文を受けての販売になりますが、自分達が作った農産物等をアピールし、販売力アップにつなげたいと取り組むことにしました。

気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会は会員数9名と少数ですが、新しいことにも積極的にチャレンジし、農業経営の向上に努めています。

②農村地域の振興に向けた取組支援

イノシシ・ツキノワグマ被害対策研修会を開催しました

令和3年3月11日

大崎農業改良普及センター

令和3年3月4日(木)、栗原文化会館において栗原市との共催により、市内の鳥獣被害対策実施隊や区長等約30名を対象に「令和2年度イノシシ・ツキノワグマ被害対策研修会」を開催しました。講師には、仙台市青葉区にある「合同会社 東北野生動物保護管理センター」で主任研究員を務めている鈴木淳氏を迎え、「イノシシとツキノワグマの生態と地域ぐるみで取り組む被害対策について」講演いただきました。

講演の中では、イノシシやツキノワグマの生態や被害対策のポイントのほか、対策の目指すべきゴールとしては根絶ではなく「人と動物の共生」であること、その上で捕獲・侵入防止・環境整備の各々を組み合わせた総合対策が必要であり、その地域にベストなやり方を地域の皆で話し合っ決めていくことが重要であることなど、今後の被害対策を考えていく上で、非常に示唆に富んだ有意義な内容でした。

講演後には質疑応答が行われましたが、生態に関するもの、被害対策に関するもの、捕獲に関するものなど、多岐にわたる質問が次々となされ、今後の被害対策に活かそうとする意欲が感じられると同時に、いかに鳥獣被害に苦慮しているか、改めて認識しました。

鳥獣被害対策については、中山間地域農業の活性化を図っていく上で不可欠となりますので、今後も研修会などを通じて、有効な対策が図られるよう支援してまいります。



道の駅『大谷海岸』がリニューアルオープンしました！

令和3年3月31日

気仙沼農業改良普及センター

令和3年3月28日に道の駅『大谷海岸』が、待望のリニューアルオープンしました。

道の駅『大谷海岸』は平成7年にオープンし、隣接するJR東日本大谷海岸駅は日本で一番海水浴場に近く、また、マンボウを飼育している施設もあり、人気の直売所でしたが、平成23年3月11日の東日本大震災により甚大な被害を受けました。その後、様々な支援や職員の頑張りにより仮設店舗で営業を続けていました。

新しい道の駅『大谷海岸』は、「オール気仙沼」をテーマに掲げ、農林水産物直売所は仮設店舗よりも面積で3倍、出荷者も100名から150名に増員し、地元市民・観光客に愛される道の駅になることを目標にしています。

今夏には大谷海水浴場も再開予定であり、三陸道大谷海岸インターチェンジにもほど近いので、皆さんも是非、道の駅『大谷海岸』にお立ち寄りください。



その他

令和2年度第2回普及活動検討会を開催しました 令和3年3月3日

大河原農業改良普及センター

大河原農業改良普及センターでは、令和2年度の活動実績と令和3年度の普及指導活動計画に関して、客観的な評価により検証し、よりよい普及活動につなげるため、2月10日(水)に外部評価委員である普及活動検討委員を招いて第2回普及活動検討会を開催しました。

検討会当日は、丸森町等の令和元年東日本台風被災地域における営農再開支援を目的とした2つのプロジェクト課題と、川崎町古閑地区の集落営農推進に向けた組織活動の活性化支援、蔵王町いちご農家の生産性と収益性の向上に対するプロジェクト課題について、活動経過と成果を説明するとともに、来年度の活動計画についても意見をいただきました。

普及活動検討委員の方々からは、「被災地域の営農再開が着実に進んでおり、更に新たな取組への挑戦が確認できるようになったことは普及活動の大きな成果だと思う」、「現場の生産者に寄り添った確かな課題解決に向けた活動を展開していると感じた」といった評価を頂く一方で、「今年度の活動で対象となった地域の更なる活性化に向けた継続的な支援を期待する」という御意見も頂きました。

普及センターでは今回の普及活動検討会の結果を受けて、これまでの活動成果を十分に検証するとともに、更なる地域農業の維持発展に向けた活動を展開していきます。



日本農業賞の表彰式が開催されました 令和3年3月18日 仙台農業改良普及センター

仙台市若林区の農事組合法人仙台イーストカントリーが、第50回日本農業賞の大賞及び農林水産大臣賞を受賞しました。

この度の受賞は、東日本大震災後わずか2ヶ月半で米作りを再開し、米にこだわった復興を成し遂げたことや、消費者目線での経営展開が高く評価されたことによるものです。

令和3年3月6日に新型コロナウイルス感染拡大防止のために全国各地を結んだオンライン方式で表彰式が開催されました。

受賞後に（農）仙台イーストカントリーの佐々木代表からは「50年、100年後も楽しい農業ができる法人でありたいと思ってやっている中で震災ですべてなくなった。農業機械などもすべて失い、大切な友人との別れもあった。しかし、命は取り戻せないが、物は努力すれば必ず取り戻せると思い、もう一度、一歩からやり直そうということで邁進してきた。日本全国に農業のすばらしさを知ってほしいという気持ちで、100年後を目指して頑張っていきたい」と話されていました。これから、ますますの活躍を期待できそうです。

受賞、誠におめでとうございます！



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.170

発行日:2021年4月21日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : nosin@pref.miyagi.lg.jp